

公益社団法人埼玉県理学療法士会
令和6年度第5回理事会議事録

1. 開催日時：令和6年12月17日（火）19：00～21：02

2. 会 場：インターネット会議

3. 理事現在数及び定足数

理事現在数 20名 定足数 11名

4. 出席理事数 20名

出席理事： 南本浩之、岡持利亘、水田宗達、田口孝行、原田慎一、渡邊雅恵、横山浩康
渡邊賢治、兵頭甲子太郎、赤坂清和、三宮将一、阿久澤直樹、櫻場勝、高野大智
米澤隆介、平野輝利人、菊地裕美、木村佳晶、杉本諭、馬崎昇司

欠席理事：

5. 監事現在数及び出席監事氏名

監事現在数 2名

出席監事：矢野秀典

欠席監事：清宮清美

6. 出席部長・エリア長・委員長

塚田陽一

7. 出席部員

小野田翔太

8. 議長の氏名

南本浩之

9. 議 題

＜計画内審議＞

令和7年度の重点目標について

令和6年度埼玉県理学療法士会功労賞について

＜計画外審議＞

事務員の退職金について

＜報告事項＞

LINEWORKS 審議について

年賀状の廃止について

＜その他＞

なし

10. 理事会の議事の経過の要領及びその結果

(1) 定足数の確認等

冒頭、本理事会はインターネット会議のため出席者の通信状況を確認し、問題なく進行できることを確認した。また、議長が定足数の充足を確認し、本会議の成立を宣言した。

(2) 議案の審議状況及び議決結果等

＜計画内審議事項＞

■ 令和7年度の重点目標について

南本会長より資料に沿って説明があった。

重点的に目指すポイント・効果：

1. 入会促進・退会抑制
2. 財政基盤の検討
3. 組織を担う人材育成や発掘の検討
4. 士会活動協力者への処遇等に関する検討
5. 事業の重複や規模・内容の検討
6. 特別委員会の組織的位置づけ・方向性の検討
7. 将来に向けた新たな事業の創造

埼玉県理学療法士会の重点目標：

- A) 理学療法士の専門性推進および質向上
- B) 地域社会への貢献・還元
- C) 会員相互のつながり強化（人的ネットワーク）
- D) 埼玉県理学療法士会の運営強化及び組織内連携推進

南本：今回重点的に目指すポイントとして、まず入会促進および退会抑制をしていく一つ柱になると考えている。そして皆様に予算の減額等々をお願いしているが、経費の見直し等の財務基盤の検討を2つ目に挙げている。そして3つ目はこれから先、士会発展していくために組織を担う人材育成や発掘の検討を挙げている。4つ目に、士会活動協力者への処遇等に関する検討ということで、埼玉県の最低賃金にも満たないところで皆様にご協力いただいているので見直しをかけなければいけないと考えている。5つ目が事業の重複や規模、内容の検討ということで、2番と大きく関連があると思うが、事業が大きくなってきている点を、監査のときに監事の方から話を受けているので、検討する必要があると考えている。6番に特別委員会の組織的位置付けて方向性の検討ということで、専門職委員会中心に特別委員会が大きく発展してきている。基本的には3年ぐらいで見直しをかけていくという委員会のため検討していく必要があると考えている。7番目に、将来に向けた新たな事業の創造ということで、我々理学療法士あるいは理学療法学が発展していくために必要な事業を士会として考えていくことが必要だと考えている。

その中で2025年度になると思うが、来年の重点目標として理学療法士の専門性推進および資質向上、地域社会への貢献還元、会員相互の繋がり強化、埼玉県理学療法士会の運営および組織強化ということで大きく4つの分類が出来ると考えている。理学療法士の専門性推進および資質向上ということで学術活動の支援、学術活動者の育成というところに力を注ぐとともに、職域拡大への取り組みを創造していくこと、専門性の追求、拡充・普及・啓発、そして政策活動への政策活動の推進、学会運営の見直し等がここに入ってくると考えている。ここは以前の拡大理事会での意見交換、事前に副会長を中心に各局・委員会等でお話していただいた内容を盛り込んでいる。B)の地域社会への貢献・還元は、ブロック中心に市民への公開講座等々行っているところだが、その活動を継続していくことと情報発信、そしてケアラー支援やエスカレーターといった県が全体的に取り組んで

いることに関して、地域社会問題への取り組みを促進していくということを士会として取り組めていければと考えている。もう一つは今年度・昨年度からやっていることだが、会員相互の繋がりを強化していくための人的ネットワークを作っていくことが挙げられている。災害の件も進んでいるが、こういった人的ネットワークにおいて、災害の支援にも繋がると思うので、この部分を強化していくことを考えている。そして D) が士会の運営強化および組織内連携推進ということで、大きくは新入会の促進等あるいは退会抑制、先ほど重点ポイントで挙げた部分が含まれると考えている。その中で、先ほど言っていた予算と業務の中では、士会の業務全体のスリム化の検討や事務室機能の強化もしっかりと考えていくことが必要と考えている。

■ 令和7年度各局・部・ブロック・委員会事業計画案について

【事務局】

議長の求めに応じ、水田事務局長より資料に沿って説明があった。

総務部：

今年度と同様の計画

庶務部：

役員連絡会議を廃止、その他は変更なし。役員連絡会議の廃止により 24 万円の予算削減

総会運営部：

今年度と同様の計画。今まで総会はハイブリッド開催であったが、ハイブリッドで開催することで費用が増えている。今後の運営について相談したい。

管財資料部：

今年度と同様の計画

厚生部：

今年度と同様の計画。重点目標に含まれる事業は予算を削減せずに計画している。

労務管理部：

今年度と同様の計画

上記の説明に関連して、次の質疑応答があった。

水田：総会について、対面開催かハイブリッド開催どちらの方が良いか。

渡邊賢：総会は規則的に対面開催が求められているのか？完全にオンラインだけの総会開催は不可能なのか？

水田：分からないので確認してみる。

渡邊：理学療法管理学会ではオンラインで開催しているので可能なのか質問した。

水田：新人歓迎会は総会と抱き合わせていたのでオンラインとなると開催が難しくなる。多くの方から対面の良さの意見ももらっている。若い人からの意見も聴取すべきだが、研修会でも対面を増やしていった方が良いという意見もあったので、色々と意見をうかがいたい。

田口：前回の拡大理事会でも話したが、教育局ではなるべく対面で開催していくことで話を進めている。総会も以前から話しているが、新人は総会に来てもらう計画を立てている。懇親会も前期研修部で開催してきたが、オンラインでも参加者は増えない。総会は新人も集まるという視点では

対面開催をお願いしたい。重点目標にも挙がっているが、新入会員に繋げるには対面でないと達成できないのではないかと。オンラインに慣れてしまっていて大変かと思うが。

阿久澤：ハイブリッドでの参加者はどの程度いたのか？

水田：150 名程ではないか。

阿久澤：オンライン前は会場に 150 名程いたか？

水田：100 名に至るか否か程度だったかと。

阿久澤：総会は委任状を出してもらえば成立するが、集まる人数を踏まえると、人が集まる企画と抱き合わせた総会という形が良いのではないかと。前期研修のポイントと合わせるとか。一方、総会というものは、多数の参加者の中でその場で議論を重ねて、当日意見を貰い理事会が返答するといった本来のやり取りを大事にするのであれば、当日参加者が多い方が良いのであればオンラインが良いのかもしれない。しっかりと理由を持って開催方法を検討・企画して振り返りを行って最終的に開催方法を決定するのが良いのではないかと。

南本：今出た意見を参考に総会運営部で検討して決めていただきたい。多くの方に総会に参加してもらうことが大事だと思っている。

審議の結果、原案通り、出席理事全会一致で承認された。

【財務局】

議長の求めに応じ、横山財務局長より資料に沿って説明があった。

昨年度は財務システムの更新があり費用がかかったが、今年度はそれがないため-82 万円となっている。

出納部：

例年通り

会費管理部：

例年通り

財務省外部：

例年通り

審議の結果、原案通り、出席理事全会一致で承認された。

【事業局】

議長の求めに応じ、渡邊賢治事業局長より資料に沿って説明があった。

各部長にご検討いただき、全体において前年度比 20.3%減で予算を組んだ。

高齢者福祉部：

概ね例年通り。生活期リハの研修を 1 回へ変更した。

小児福祉部：

例年通り

健康増進部：

事業内容は例年通り。介護保険サービス事業所支援事業を年 2 回やっていたが 1 回へ縮小
スポーツリハビリテーション推進部：

事業内容は例年通り。スポーツリハビリテーション技術研修は、年 4 回対面で実施していたものを 3 回オンライン研修へ置き換えて予算を削減した。

上記の説明に関連して、次の質疑応答があった。

水田：高齢者福祉部の部長の変更はまだ承認されていないので以前の方の名前で再提出をお願いしたい。

渡邊賢：修正しておきます。

審議の結果、原案通り、出席理事全会一致で承認された。

【学術局】

議長の求めに応じ、兵頭甲太郎局長より資料に沿って説明があった。

理学療法推進部：

事業内容は例年通り。雑誌の発刊を紙面から Web に変えることで、130 万円以上の減額となっている。

研究推進部：

例年通り

審議の結果、原案通り、出席理事全会一致で承認された。

【教育局】

議長の求めに応じ、赤坂教育局長より資料に沿って説明があった

認定専門研修部：

例年通り

前期研修部：

概ね例年通りだが、6 月の総会に合わせて対面での新人交流会を再開する予定。新たに国家試験対策研修会を開催し本会活動の普及・啓発活動を計画している。

後期研修部：

例年通り

登録・認定・専門理学療法士管理部：

例年通りに加え、新規で生涯学習の意識調査アンケートを行う。

臨床実習教育部：

例年通り

指定管理者研修部：

例年通り

上記の説明に関連して、次の質疑応答があった。

水田：普及・啓発事業の養成校訪問はどの程度行えているのか？

赤坂：養成校側の受け入れもあるが、1/3 程度は訪問できている。

審議の結果、原案通り、出席理事全会一致で承認された。

【広報局】

議長の求めに応じ、三宮広報局長より資料に沿って

広報誌編集部：

事業内容は例年通り。ページ数を減らし予算を減額

インターネット管理部：

例年通り

理学療法週間推進部：

例年通り

上記の説明に関連して、次の質疑応答があった。

渡邊：前回の拡大理事会でも話したが、理学療法フェスタの日当はブロックでは準備していないが大丈夫か？

三宮：こちらで準備している

阿久澤：YouTube やインスタのフォロワーや閲覧数を増やす戦略は考えているか。県民に対する理学療法を普及・啓発していくための具体的な戦略はあるか。

三宮：各局でやっている事業を SNS で発信していくことが必要だと感じている。今後はインスタグラムの開設を予定しているので、そちらを活用していければ、理学療法士会というものが啓発されるかなと考えている。

阿久澤：世の中の意識・風潮も変化し、選挙も SNS の活用が増えるという流れもある。理学療法週間は協会主導であり、県士会の仕事として必ずやっていくことだが、もっと効率よく広報していく事も重要になってくると思っている。多くの人に知ってもらえるよう戦略的に行うことは必要ですし、そういうことが上手な人が、協会外でもいろんな人を仲間に引き入れて他の業種との連携もうまくいくような。時代はそのような流れがあるので、我々の団体としてもそういったところに力を入れていけると良いと思ったのでご検討いただければ。

三宮：3 部で話し合い共有していきます。

審議の結果、原案通り、出席理事全会一致で承認された。

【職能局】

議長の求めに応じ、阿久澤職能局長より資料に沿って説明があった。

業務推進部：

自民党の情勢もあり、理学療法士としての県内の意見を集約して総意にするような役割を個々の事業位置に設けた形にしたいと考えている。他団体（ダイハツ）との保険外活動が再開する予定。加えて新たには腰痛予防等、産業分野の協会主導で動いているものや、AG フレンドリー補助金とかってというようなものを使っての産業保健分野の活動を他団体との連携強化に取り入れていく。

ダイハツの方は現在職能局で受けているが、事業が安定したら事業局へ移行し、職能局では対象人材の紹介を行っていくような方法にできればと考えている。

医療保険部：

仕組み・サービス内容・連携という 3 つの研修会を企画していたが、サービス内容を充実させる研修会へ統合

介護保険部：

医療保険部同様に 3 回研修会を行っていたものを 2 回の研修会に統合

地域包括ケア推進部：

概ね例年通りだが、ブラッシュアップ研修を年 2 回へ縮小

全体として、はオンラインでできるものはオンラインとし、交通費等の予算を抑えている業務推進部は前年度比-28 万円の 61%、医療保険部は-16 万円の 62%、介護保険部が-9 万円で 76%、地域包括ケア推進部が-25 万で 82%、職能局全体で 73%の予算を組んだので、-27%の予算という形になっている。

審議の結果、原案通り、出席理事全会一致で承認された。

【東部ブロック】

議長の求めに応じ、櫻場東部ブロック理事より資料に沿って説明があった。

ブロック全体：

公開講座を廃止し、各エリアで交流会を開催している為、ブロック全体の交流会議も廃止とした。

その分、啓発活動に重点を置く予定。

北エリア：

例年通り

中央エリア：

例年通りだが、研修会を 1 回削減

南エリア：

例年通りだが、会議回数を削減

上記の説明に関連して、次の質疑応答があった。

田口：啓発活動のイメージは？

櫻場：市民祭りでの体力測定やパンフレットの配布、認知症イベントへ参加し理学療法士のブースを出すことを考えている。

田口：よくわかりました。

渡邊雅：補足だが予算について昨年度と比較し、57%まで下げていただけた。

審議の結果、原案通り、出席理事全会一致で承認された。

【西部ブロック】

議長の求めに応じ、高野西部ブロック理事より資料に沿って説明があった。

ブロック全体：

公開講座は集客が難しかったので、東部ブロックと同様に市民祭りへの参加による啓発を予定している。

川越エリア：

例年通り

秩父エリア：

例年通り

三芳エリア：

研修会を1回へ削減。症例検討会も発表者が少なかったため1回へ削減

所沢エリア：

例年通り

予算について、令和6年度は171万円で、来年度は154万円台で10%の削減となってしまった。

上記の説明に関連して、次の質疑応答があった。

田口：エリアによって交流会議があるが、他のエリアでは交流会議はないのか？

高野：交流会議と運営会議で分けている。

田口：エリアによって交流するエリアとしないエリアがあるということか？

高野：交流会議で人を集めてみるのと、研修会だけで人を集めるという違いがある。

阿久澤：全部局が予算削減とどの部局も苦勞してやってきたことなので、理由という部分で例年通りやりますっていうエリアがあったと思うが、それを2本にすることと、3本継続するという理由を教えていただきたい。そうすると承認しやすくなる。

高野：参加者の多かった研修会の頻度は減らさずに計画した。

阿久澤：ありがとうございます。

田口：先日の拡大理事会で、研修会を企画しながら会員とのつながりや交流を持つという話だった。

西部ブロックだけでなく、ブロック全体ではあるが、研修会をWeb開催または対面開催とした時に、交流の持ち方をどのようにしていくことを考えているか。

高野：対面での実技研修を増やし交流の機会を設けたいと考えているが、講師との交渉がうまくいかない場合もあるのでウェブ開催という記載で計画している部分もある。

田口：そうするとウェブでは交流は出来ないという事か。渡邊さんから答えてもらおうと良いか。

渡邊雅：こちらとしては、なるべく対面でやっていただいて、研修会の後に交流会をお願いしますということは伝えていたが、恐らく地域によって違いがあると思う。よく川越や秩父の話を聞くと、研修会だけでも交流は図れていると聞いたので、それもあって交流会を計画しなかったのではないかと考えている。ただし全体的にエリアでは、交流会議は川越や秩父はやらないが、全体か西部では交流会議を行うので、そこで補填はできると考えている。

田口：いずれにしても局で行っている研修会との違いを出す必要があるかと思う。

渡邊雅：対象が違うので違いはある。交流がメインだし。

田口：ですので、研修会をやって終わりではなく、研修会の中でどのように交流を図れたかを報告してもらえると良いなと思う。

阿久澤：先ほど私が質問したところでお答えいただいた後の私の見解を伝えていなかった。ブロックの活動は、理学療法士の重点課題の中でもネットワークの構築というところにとて

も影響するところなので、私としては予算を無理矢理削減することよりも、本当に必要なところに予算を割くってという意味で、予算の削減割合が少なくても目的が達成できれば賛成という立場で意見を述べた。ウェブ開催か否かは、やはりエリア毎に異なると思うので、それを検証することが必要だと思う。対面でないと交流できないというのは、そうかもしれないが、対面じゃ来ないという人がたくさんいるので、その辺も見極めなければいけないと思う。対面じゃなくても交流できるということも、ノウハウとして持たなければいけないと両方思うので、一緒に試して、みんなで考える課題なのかなと思う。

田口：私も対面でないとできないって思っているわけではなく、対面以外の交流の仕方を模索してほしいなと考えている。戦略としてどのようにしていくかを理事会という場も含めて皆で考えていければ。

水田：各事業計画を立てて、LINE ワークスで審議を経て承認されたら、実際に行った事業の報告をお願いしているが、徹底されていないのでお願いしたい。どれだけの予算を使用し、どれだけの参加者がいたのか、どれだけ成果が上がったのかという報告をしてもらい、何かコメントをしてもらえば、皆で共有できるのではないかなと思う。報告が徹底されていないのが現状で、事業報告は総会資料のみという感じになっており、予算の使い方が見えない状況にあるので、徹底していただきたい。

田口：LINE ワークスに報告していただいているが、すべて確認できないこともある。ブロックでは参加者数だけではなく、こういう交流が出来たという報告までしてもらえると良いのではないかな。それをブロックでまとめて理事会で報告してもらう方が皆で共有し考えられるのではないかな。

渡邊：それをブロックだけが報告するのは違うのではないかな。現状でブロックではすべて報告している。予算、交流についても記載がしてある。確認できないと言われると困る。

田口：報告の仕方の話。目的に合わせた報告の仕方が望ましい。

阿久澤：渡邊雅恵さんがブロック連絡委員会にて一括してまとめていただいていると思うので、そこで成立していると思う。それを踏まえて、三役で議論してもらうべきではないかな。ブロックの先生方の負担も増えると思うので。理事会にあげるかに関しても、渡邊さんの意見を踏まえてご検討いただくべきではないかな。

櫻場：研修会の目的が交流とあるが、参加者、運営委員が集まっただけの交流もある。ウェブだと他県からの参加もあり参加者の交流が難しくなると感じており、出来れば対面でやっていきたいところだが、今のご時世でウェブでもやらないといけないと感じ試行錯誤している。言い訳みたいではあるが。

南本：交流について検討課題があるが、以前より交流会や様々な取り組みを各ブロックでしていただいているので、効果判定をしながらよろしくお願いします。

審議の結果、原案通り、出席理事全会一致で承認された。

【南部ブロック】

議長の求めに応じ、米澤南部ブロック理事より資料に沿って説明があった。

ブロック全体：

事業数自体が交流になると考え事業数は減らさず、エリア長との会議や関わる人員を減らし、予算削減を試みた。ブロックとしては、ネットワークの構築がメインの課題だが、研修会や交流会議はあくまで手段であって、例えば研修会だとオンラインでも同じだが、研修会 90 分の中で、最後の 30 分は意見交換会、いわゆるグループワーク的なものを行うといった形で対面でもオンラインでも交流が行えている。

県央エリア：

例年通り

さいたまエリア：

例年通り

南エリア：

例年通り

上記の説明に関連して、次の質疑応答があった。

米澤：補足で、交流会等をいろんな形で行うが、やはりそれをやって、その後どうなるかっていうところが今後の課題だと思っている。例えば交流を持った我々の企画で交流を持った後に、県士会の活動とは別に、各自が独自で連絡を取り合うこと等に繋がったら一番いいのかなと思っているが、具体的にどういう手段で実現させていくかが難しいと感じている。その一つの手段として LINE 公式アカウントに我々の事業をきっかけに登録をしてもらって、登録者同士で色々関わりができるというようなことに数年かけて発展していきたいと思っている。ブロック連絡会議でも、ブロック理事同士またはブロック以外の理事の方とも意見交換をして、発展できたらと思っている。

田口：おっしゃるようにどう繋がりが増えたかを示すのは難しいが、入会率や退会の話に繋がっているのではないと思う。どのような形で深まったかという確認作業を今後検討していかなければと考えている。

米澤：具体的に推し量る指標として、現在は交流会や症例検討会を企画した時に発表者が少ないが、今後交流会や症例検討会を企画した際にエリアの施設から発表者が増えた時に、我々の仕事もうまくいったなと思えると嬉しい。

田口：症例検討会は全国的に出てこないそう。

米澤：ここのエリアである人がやっているのであれば、やってみようというような形になると良い。日頃の顔合わせの頻度等によって違ってくると思うので。そういうのが、最終的に目に見える形として成果となるのかなと思っている。そこを目指している。

田口：客観的な数値化だけでなく、ブロックの理事の方々等の主観的に感じることも良いのかなとも思った。

渡邊雅：先日の拡大理事会で理事やエリアの方をお願いしたのが、対面は対面でとても良いが、どうしても平日の夜に開催する為、育児をしている女性の参加が難しいので、育児をしている女性の方でも参加できるような研修企画もお願いしたい。オンラインであれば参加できる方もいるかもしれないのでオンラインでの研修も継続して欲しいとお願いした。

田口：新しく出来たウィメンズヘルスの委員会での意見だと、時間が 18 時から 20 時の間は子育て中の女性からすると大変な時間のよう。ですので、遅めの時間で開催するとか、1 時間の研修を 2 回開催するといった配慮をしてもらえると有難い様子だった。

審議の結果、原案通り、出席理事全会一致で承認された。

【北部ブロック】

議長の求めに応じ、平野北部ブロック理事より資料に沿って説明があった。

ブロック全体：

全体で約 25%の予算削減をした。具体的には、公開講座を普及活動へ変更したり、会議数を減らしたり、運営委員の会議の参加人数を減らすことで対応し予算を削減。

東松山エリア：

例年通り。研修企画の中で、同じ講師に 1 回目を Zoom、2 回目を実技の対面研修として研修をしてもらい、Zoom に出て興味を持った参加者から、そのまま対面での実技研修に参加してくれるのではないかと考えて計画している。

熊谷エリア：

例年通り

坂戸エリア：

例年通り

深谷・本庄エリア：

例年通り

上記の説明に関連して、次の質疑応答があった。

田口：地元の講師を招く際に、教育局の中でも登録・認定・専門を取り扱っている部があり、どの施設にその認定・専門を持っている方がいるか情報共有できるので活用してもらえれば。

審議の結果、原案通り、出席理事全会一致で承認された。

【ブロック連絡委員会】

議長の求めに応じ、渡邊雅恵ブロック連絡委員長より資料に沿って説明があった。

交流について理事やエリア長との会議を行っていく。連盟との連携について色々やっていく。

審議の結果、原案通り、出席理事全会一致で承認された。

【国際スポーツ競技対策委員会】

議長の求めに応じ、原田担当理事より資料に沿って説明があった。

予算配分としては、約 25%の削減で 60 万円程度の減額することができる。内容としては、技能検定・講習会を 1 回へ削減

審議の結果、原案通り、出席理事全会一致で承認された。

【組織運営委員会】

議長の求めに応じ、菊池担当理事より資料に沿って説明があった。

財政基盤検討委員会：

例年通り

表彰委員会：

例年通り

組織検討委員会：

例年通り

運営基盤検討委員会：

例年通り

選挙管理委員会：

例年通り

会員成長戦略委員会：

新たに立ち上がった委員会で、交流会・交流ネットワークに結び付くと考えられる、入会促進や復会促進、退会抑制に関する県士会事業の情報収集を行っていく。情報収集した上で、会員の成長に繋げる戦略を見いだしていくために様々な世代、ライフステージの方々から意見を徴収し、部員もこれから検討していく。まずは課題の整理を取り組んでいくことを委員長と話している。新たな予算で21万程つけている。

上記の説明に関連して、次の質疑応答があった。

水田：選挙管理委員会だが、次年度は役員改選となり選挙となるため、今年度と異なる。

菊池：その通り。予算は変更ない。

審議の結果、原案通り、出席理事全会一致で承認された。

【学術教育委員会】

議長の求めに応じ、木村担当理事より資料に沿って説明があった。

埼玉県理学療法学会評議委員会：

例年通りだが、予算を6%減

第32回埼玉県理学療法学会準備委員会：

例年通り

第33回埼玉県理学療法学会準備委員会：

例年通りだが、17万円程予算削減

第34回埼玉県理学療法学会準備委員会：

例年通りだが、25%の予算削減

職業倫理委員会：

今年度のアンケートに基づいた研修会を企画予定

審議の結果、原案通り、出席理事全会一致で承認された。

【専門性委員会】

議長の求めに応じ、杉本担当理事より資料に沿って説明があった。

がんリハビリテーション推進委員会：

例年通り

糖尿病対策委員会：

例年通り

装具療法地域連携対策委員会：

例年通り

学校保健・特別支援教育推進委員会：

特別支援も含めてすべて行うのは大変なため、まずは認定スクールトレーナーを中心に動いていく。

神経難病リハビリテーション推進委員会：

例年通り

ウィメンズヘルス推進委員会：

ウィメンズヘルスを行っている施設のマップ作りからスタートしている。

学校保健特別支援教育推進委員会、神経難病、ウィメンズヘルスが比較的新しい委員会で、まだ軌道に乗っている状態ではないため、事業を減らすことが難しい状況。ただ可能な限りウェブ開催でやっており、対面でやる際も役員の人数を少し減らしていただいて、最終的にこの6つの委員会で30万弱ぐらいは減額できた。

上記の説明に関連して、次の質疑応答があった

阿久澤：事業計画とは異なるが、日本理学療法士協会の職能課が担当する事業として、ウィメンズヘルスと学校保健スポーツが入っている。各委員会を専門性委員会から組織改編するときには、職能に関わるところに入ると、協会の職能担当者会議で情報が来るので、今後の委員会編成の為に情報提供させていただいた。

審議の結果、原案通り、出席理事全会一致で承認された。

【職能委員会】

議長の求めに応じ、馬崎担当理事より資料に沿って説明があった。

訪問リハビリテーション推進委員会：

例年通りだが、予算は約25.3%の削減

災害対策委員会：

災害リハビリテーションと地域リハビリテーション講演会は1-2 関係他団体との関係作り／会議・情報交換に組み込んで予算を削減する予定

上記の説明に関連して、次の質疑応答があった

岡持：補足だが、災害リハに関して 11 月 22 日に埼玉県と埼玉 JRAT と協定が締結された。来年の 1 月に埼玉県の PT・OT・ST の会長、専門職協会、埼玉 JRAT の事務局、県庁とのキックオフの会議のようなことがあるので、何か内容が分かり次第お知らせする。

審議の結果、原案通り、出席理事全会一致で承認された。

■ 埼玉県士会功労賞について

議長の求めに応じ、菊地理事より資料に沿って説明があった。

審議の結果、原案通り、出席理事全会一致で承認された。

< 計画外審議事項 >

■ 水田事務局長より

事務員の退職金の支払いについて、資料に沿って説明があった。

審議の結果、原案通り、出席理事全会一致で承認された。

< 報告事項 >

■ LINEWORKS 審議

資料参照

■ 年賀状について：水田事務局長

各協会からは年賀状廃止の連絡が来ている。当会も今年度は間に合わない為、発送するが次年度以降は廃止する旨を明記して発送する。

< その他の事項 >

矢野監事より

会長の重点項目に沿って次年度も進めて欲しい。予算削減も皆さんも考えて頂き感謝している

以上をもって議案の審議等を終了したので、21 時 02 分、議長は閉会を宣し、解散した。

この議事録が正確であることを証するため、出席した代表理事及び監事は記名押印する。

会長 _____ 印

監事 _____ 印

監事 _____ 印